

教科書編集部便り

今回は、漢字や表記に関して、編集部によく寄せられるご質問と、それに対する回答をご紹介します。

① 四年上巻「伝言はまちがえずに」(P 50)の「きき返す」は、「聞き返す」とすべきではないか。

「きく」は、大きく次の二つに分けることができます。一つは、「友達の話を聞く」「医者言うことを聞く」のように、音声を耳を通して感じ取る場合です。もう一つは、「道をきく」「遅刻したわけをきく」のように、答えを求め口で問う、尋ねる場合です。この場合、かつては「訊問」の「訊」が使われました。しかし、「訊」は常用漢字表にない漢字なので、現在は「きく」と平仮名で表記されるのが普通です。「伝言はまちがえずに」の「きき返す」は、聞き取れなかったところや分からないことを相手に尋ねる、という意味なので、平仮名で表記しています。

② 「部首」と「偏旁冠脚」は、どう違うのか。

「部首」とは、元来中国古代の字書「説文解字」で始められ、「康熙字典」によって大成された漢字の分類・配列方法で、文字の成り立ちから意味を考え、字形を分析して得られる概念です。中国の古い時代に生まれたもので、旧字体から新字体になってもほとんどの要素がなくなった字も数多くあります。「声」「当」(それぞれ旧字体は「聲」「當」など)。辞典によっては、新字体による分類を優先し、以前とは違う部首に分類することもあります。いっぽう、

「偏旁冠脚」とは、純粹に漢字の構成部分に着目した概念です。漢字には会意文字・形声文字の割合が多く、必然的に字形はいくつかの部分に分けられるものが多くなります。このとき、配置上左にあるものを偏、右にあるものを旁、上にあるものを冠、下にあるものを脚といい、この代表的な四つをあわせ「偏旁冠脚」とよびます。一般には、「部首」と「偏旁冠脚」は混同されることも多いようですが、小社では本来の意味を尊重し、この二つを使い分けています。「部首」は前述のように辞書によっても違うため、四年上巻「漢字辞典の使い方」(P 32)でのみ扱っています。

③ 四年配当漢字「夫」の「フウ」という読みは、小学校では習わない読み方なのに、なぜ読み替え漢字として欄外に提出されているのか。(四上P 51)

「学校教育における外来語及び音訓の取扱いに関する調査研究協力者会議」の審議まとめ(平成三年)では、「フウ」という読みは中学校に割り振られています。いっぽうで、「工夫」という語は小学校段階でも教科書中に頻出し、また児童の使用頻度も高いものです。そのような実態を踏まえると、教科書でもこれを漢字で表記し、「フウ」という読みも押さえておくのが学習上適切ではないかとの判断から、このように提示しているものです。前述の「協力者会議」の審議まとめは、あくまでも目安を示したもので、例外としてこのような扱いも可能となります。ただし、小学校で学ぶ音訓「フ・おと」を学習した後に、「フウ」を提出するよう配慮しています。

広報部便り

研究会のご案内

■第五十三回 全国国語教育研究大会

開催日 平成二十年二月一日(金) 十時～十六時四十分
二月二日(土) 九時～十二時十五分

会場

京都市立第三錦林小学校
京都市立向島南小学校
京都市総合教育センター

テーマ

実生活・実社会に生きる国語力の育成(1)
～読解力と記述力を重視して～

内容

基調提案／公開授業／研究協議会
講演

(二月一日)
(二月二日)

① 「実生活・実社会に生きる国語力の育成
—新学習指導要領の方向をうけて—」
文部科学省教科調査官・井上二郎先生

② 「動物に絵を習った」 絵本作家・あべ弘士先生

参加費

三三〇〇円

連絡先

京都市立向島南小学校内 全国国語教育研究大会本部
〒六二一・八一五四 京都市伏見区向島津田町九五・一
TEL 〇七五(六〇二)二八二四
FAX 〇七五(六〇二)二八二五
E-mail mukajimamini-s@edu.city.kyoto.jp
http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/mukajimamini-s/

編集後記

新学習指導要領の告示を前にして、これからの国語教育について、さまざまな議論がなされていますが、漢字の指導については、「教育課程部会におけるこれまでの審議のまとめ」(平成十九年十一月七日中央教育審議会)のなかでも、漢字の指導について「日常生活において確実に使えることを重視し、実際の文章や表記の中で繰り返し学習させるなど、児童の習得の実態に応じた指導を充実する」ことが求められています。

今回の特集では、座談会で漢字指導の魅力と可能性について語っていただき、実践提案で実際の授業の中での工夫を紹介させていただきました。日常の指導のご参考としていただければ幸いです。

また、弊社ホームページ「光村チャンネル」では、「審議のまとめ」について、「識者による解説」を掲載しています。ぜひご覧ください。

ご意見・ご感想、取り上げてほしいテーマなどありましたら、ぜひ広報部までお寄せください。お待ちしております！

FAX 〇三(三四九三)五四八三
E-mail: koho@mitsumura-tosho.co.jp

